

## 標茶町地球温暖化防止実行計画進行管理

平成20年度の状況（進行管理）を公表します。

	15年度使用量	20年度使用量	比較	削減率
ガソリン	49,656	49,890	234	0.5 %
軽油	211,183	251,358	40,175	19.0 %
灯油	258,382	237,888	20,494	7.9 %
A重油	1,044,715	762,559	282,156	27.0 %
LPガス	9,312 m <sup>3</sup>	8,422 m <sup>3</sup>	890 m <sup>3</sup>	9.6 %
電気	4,298,890 kwh	4,170,276 kwh	128,614 kwh	3.0 %
廃プラ一般	306 t	406 t	100 t	32.7 %
廃プラ産廃	0.18 t	17.48 t	17.30 t	9,611.1 %
廃油産廃	0.00 t	0.00 t	0.00 t	0.0 %
CO <sub>2</sub> 排出量	6,646,736 kg	6,194,659 kg	452,077 kg	6.80 %

### 実行計画の削減目標

6,646,736 kg	2.2 %	6,500,799 kg
--------------	-------	--------------

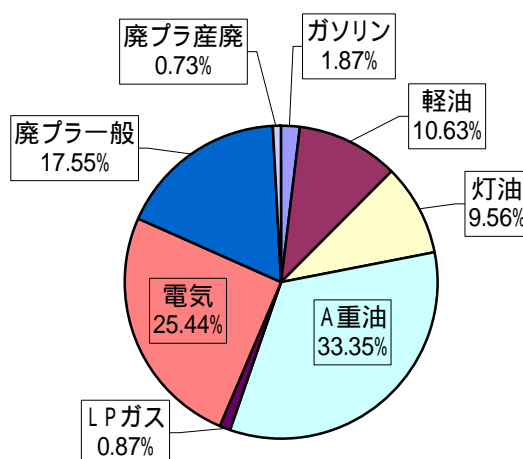
### 結果分析

基準年である平成15年度に比して、二酸化炭素排出量は452 t減少し、削減目標値である2.2%、京都議定書の6%を上回る6.8%の減少となった。これは、クリーンセンターの助燃剤としてのA重油が17万8千減少したことが大きい。なお、可燃ごみが減少しているにもかかわらず、一般プラスチックの焼却量が増加しているのは、年4回の抽出検査による組成率の変動が大きく影響している。

A重油削減の従たる要因としては、標茶中学校のボイラーの更新によるエコ性能の向上、虹別酪農センター及びさくら保育園の灯油ボイラー（ストーブ）への変更が影響している。また、今冬の暖冬化も寄与している。

公用車の燃料については、エコドライブの実践がなされているが、特殊車両の稼働距離が約7万8千km伸びていることが軽油使用量の増加につながっている。

20年度CO<sub>2</sub>排出量構成比



問い合わせ先

企画財政課企画調整係

015-485-2111(内221)